

(様式 3 号)

学 位 論 文 の 要 旨

氏名 文本 朋子

〔題名〕

冠攣縮性狭心症患者における下壁誘導のJ波は心室細動のリスクファクターとなりうる

〔要旨〕

冠攣縮狭心症 (VSA) 患者におけるJ波と心室細動 (VF) の発生に関連する情報は少ない。本研究では、VSA患者におけるJ波の存在とVFの関連性を評価することが目的である。

対象者は、2002年から2014年までに当施設でアセチルコリン負荷試験を受け、VSA患者と診断された62名である。我々は心室細動の既往、J波の存在、心室細動とJ波の関係を調査した。

J波は16例 (26%) で観察され、心室細動の既往は11例 (18%) で確認された。J波を有する患者におけるVFの既往は、J波を伴わない患者より有意に多かった (38%対11%、 $p = 0.026$)。J波は、下壁誘導に14人、側壁誘導に5人、前壁誘導に3人観察された。単変量解析では、下壁誘導でJ波を有した患者のVFの既往 (46% = 6/14) は下壁誘導にJ波を有しない患者 (10% = 5/48) より有意に高かった ($p = 0.01$)。前壁および側壁誘導におけるJ波は、VFの既往と関連がなかった。ノッチ型とスラー型J波はVFの既往に関連していなかった。多変量解析では、VSA患者のJ波は、VFの既往 (オッズ比 [OR] 6.41、95%信頼区間 [CI] 1.37-29.93、 $p = 0.02$) および冠動脈の有意狭窄 (OR 6.98、95% CI 1.39-35.08 $p = 0.02$) と関連があった。さらに、下壁誘導におけるJ波はVFと強く相関していた (OR 11.85、95% CI 2.05-68.42、 $p = 0.006$)。

この結果は、J波の存在が、特に下壁誘導において、VSA患者での心室細動の危険因子である可能性を示した。

作成要領

1. 要旨は、日本語で800字以内、1枚でまとめること。
2. 題名は、和訳を括弧書きで記載すること。

学位論文審査の結果の要旨

医学系研究科応用医工学系 (医学系)

報告番号	甲 第 1475 号	氏 名	文本 朋子
論文審査担当者	主査教授	廣野 公一	
	副査教授	小林 誠	
	副査教授	矢野 雅文	
学位論文題目名 冠攣縮性狭心症患者における下壁誘導の J 波は心室細動のリスクファクターとなりうる			
学位論文の関連論文題目名 Inferior J waves in Patients with Vasospastic Angina Might be a Risk Factor for Ventricular Fibrillation (冠攣縮性狭心症患者における下壁誘導の J 波は心室細動のリスクファクターとなりうる)			
掲載雑誌名 Journal of Cardiology アクセプト済み Published online: January 12, 2017 http://dx.doi.org/10.1016/j.jicc.2016.12.003 (2017 年掲載予定)			
(論文審査の要旨)			
<p>冠攣縮性狭心症 (VSA) 患者における J 波と心室細動 (VF) の発生に関連する情報は少ない。本研究では、VSA 患者における J 波の存在と VF の関連性を評価することが目的である。</p> <p>対象者は、2002 年から 2014 年までに当施設でアセチルコリン負荷試験を受け、VSA 患者と診断された 62 名である。我々は心室細動の既往、J 波の存在、心室細動と J 波の関係を調査した。</p> <p>J 波は 16 例 (26%) で観察され、心室細動の既往は 11 例 (18%) で確認された。J 波を有する患者における VF の既往は、J 波を伴わない患者より有意に多かった (38%対 11%、$p = 0.026$)。J 波は、下壁誘導に 14 人、側壁誘導に 5 人、前壁誘導に 3 人観察された。単変量解析では、下壁誘導で J 波を有した患者の VF の既往 (46% = 6/14) は下壁誘導に J 波を有しない患者 (10% = 5/48) より有意に高かった ($p = 0.01$)。前壁および側壁誘導における J 波は、VF の既往と関連がなかった。ノッチ型とスラー型 J 波は VF の既往に関連していなかった。多変量解析では、VSA 患者の J 波は、VF の既往 (オッズ比 [OR] 6.41, 95%信頼区間 [CI] 1.37-29.93, $p = 0.02$) および冠動脈の有意狭窄 (OR 6.98, 95%CI 1.39-35.08 $p = 0.02$) と関連があった。さらに、下壁誘導における J 波は VF と強く相関していた (OR 11.85, 95%CI 2.05-68.42, $p = 0.006$)。</p> <p>この結果は、J 波の存在が、特に下壁誘導において、VSA 患者での心室細動の危険因子である可能性を示した。</p> <p>本論文は冠攣縮性狭心症患者における J 波について詳細に検討したものであり、学位論文として価値あるものと認めた。</p>			
備考 審査の要旨は 800 字以内とすること。			